



令和5年10月6日 第3号

留学特集

昨年度末から今年度にかけて短期留学に挑戦した2人の生徒を紹介します。本校ではグローバルな視点に立って地域社会をリードできる人材育成を目標に掲げ、世界に羽ばたき活躍したいという生徒を応援しています。この2人に続いて多くの生徒が広い視野を持ち、世界へ羽ばたき活躍して欲しいと思います。

国際ロータリークラブ青少年交換プログラム参加 菅原剛くん

令和5年3月15日～29日 オクラホマ州



私はロータリークラブ主催の青少年交換プログラムに参加しました。

はじめにアメリカに降り立ったとき、今まで感じたことの無い空気感や実感に包まれました。このときの感動が徐々に脳内に行きわたった瞬間や、ホームステイ中のさまざまな記憶が今でも鮮明に蘇ります。

最初は空港で話を通じなかったり、広げた手のひらよりも大きなステーキがでてきたりと食生活やコミュニケーションの不安でいっぱいでした。しかし、ホストファミリーの皆さんは私たちをオクラホマ州立大学、オクラホマ大学の見学や、アメリカ独特の体験をさせてくれたり、また日曜日には教会で日曜礼拝に参加するなど異文化に触れる機会も作ってくれたりと様々な経験をさせてくれました。その中で徐々に緊張はほぐれ、英語でのコミュニケーションにも慣れることが出来ました。

これらのアメリカでの生活を通し、ホームステイ中に会った国内外のロータリークラブの方々、優しく面倒を見てくれたホストファミリーの皆さん、そして何より現地で知り合い、交流会で出会った友人たちは何物にも代えがたい宝となりました。オクラホマシティで開催された交流会で出会った人々とは、今でも連絡を取り合っています。特に同年代のジェイは、インスタで数学の問題の解法を教え合うなど親密な交流を今でも続けています。また帰国後に今度はオクラホマから留学生が来日し、パーティでは一緒にダンスをしたり、留学生たちが出し物をしたりまた楽しい思い出ができました。

留学中や帰国後のすべての出来事があつという間だったの一言に尽きますが、心優しいロータリーの方々やホストファミリーに恵まれ、ホームステイ中に自分が成し遂げた様々なことを思い出すと今でも誇りに思います。ロータリーの方々へは感謝してもしきれませんが、ホームステイ中の出来事は、今の自分の自信にもつながっています。数多くの貴重な経験を体験し、苦手である英語に逃げずに取り組み向き合うきっかけにもなり、日本企業と外国との企業を橋渡しする人材になるという新しい未来の目標を得ることも出来ました。

今後もホームステイ中に得た経験を活かし、新たな目標に向かって勉学に励み努力していきたいと思っています。



令和5年7月26日～8月17日 カリフォルニア州

アメリカで学んだ地域創生

～TOMODACHI サマー・ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム 2.0 に参加して～

私はアメリカに三週間滞在し、地域創生とリーダーシップについて学びました。その中で、地域創生には3つのことが必要だと感じました。

始めに、アメリカでの生活を通して、地域創生には世界から地域を見つめることが大事なのだと分かりました。私はプロジェクトに参加するまで、なぜアメリカで地域創生を学ぶのか疑問に思っていました。しかし、日本から離れることで地域を客観的に見つめることができました。美味しい水や野菜は私たちにとっては当たり前のもので、アメリカではほとんど手に入りません。地域の中では魅力だと気付けないことも、「世界からの視点」で地域の魅力なのだと気付くことができました。

次に、地域創生のプロジェクトを考える中で、自分から声を発することで学びを深められるということに気が付きました。アメリカの街中や教室には自由な雰囲気が漂っています。日本とは異なる環境の中で、勇気をもって積極的に意見を出すことで、自分の考えが鮮明になり、多くのフィードバックも受けることができました。「主体性」を持って学ぶことで、より多くの気づきを得ることができたと思います。

最後に、プロジェクトのプレゼンテーションの準備の中で、仲間の力を借りることが大切なのだと分かりました。周りにいる人たちには自分にはない強みがあり、自分にも誰かのためになる強みがあります。仲間からのアドバイスでより良いプレゼンテーションにブラッシュアップすることができ、教えてもらった技能は自分の新たな力になりました。互いに「協力」して活動することで、互いに発表力も高めることができました。私は今回の渡米で、地域を活性化させるプロジェクトには「世界からの視点」、「主体性」、「協力」が必要であると感じました。今回のプログラムで学んだことを生かし、地域をより良くできるプロジェクトを実施していきたいと思っています。



地域コーディネーター
たけだよしひろ
竹田祐博さん着任



このたび、本校の地域コーディネーターとして新しく着任された竹田祐博先生を紹介します！9月より総合的な探究の時間のサポートをしています。皆さんどうぞよろしくお願いいたします！

【自己紹介】この度、白石高校の地域コーディネーターに任命されました竹田と申します。関西出身、アメリカ育ちで、白石には、2018年白石市地域おこし協力隊第1号として移住しました。地域おこし協力隊として、白石産ササニシキのブランディング、販路拡大に3年間携わりました。白石高校生と一緒に「白高ササフェス」を企画したりと、白石高校とは、その時から関わりを持たせていただいています。その後、2021年、宮城県地域おこし協力隊第1号に就任し、宮城県全域で地域おこしに携わり、今に至っています。これだけ地域おこしに携わりながら、本業は陶芸家です(笑)。白石城の麓で「蒼塵窯(ソウジンガマ)」を2021年に開業し、アオにこだわった作品を作っています。5年間、地域おこしに携わり感じたのは、「教育」の大切さです。先生でもない自分が教育の現場に携われて、嬉しく思います。

「高校生活が、楽しい！おもしろい！」と高校生が感じるだけでなく、「白石がイキキしている」と地域の方々も思えるよう、「地域」と「教育」を繋いでいきたいと思っていますので、皆様からのご協力よろしくお願いいたします。